

世にも不思議なエノキの巨木

Facebook, 2018.5.1, 0:10

世にも不思議な巨木。樹齢 300 年超の榎。広島市中区江波（エバ）本町にある聖山稲生（ヒジリヤマイナリ）神社境内の神木。／正面から見れば、胴回り 3メートルを越す巨木に見えるが、裏に廻れば、何と胴体（幹）は空っぽ。ほとんどぺらぺらの樹皮のみ。おまけに破れて穴まで開いている（根元近くの写真のしめ縄の左の白い紙（紙垂、四手、シデ）の下辺り。向こう側＝表側が透けて見えている。）。下部のぺらぺらの樹皮だけで、よくもあれほど青々と繁る重い上部を支えていられるものよと、不思議でなりません。根からの水や栄養分も、ぺらぺらの樹皮だけで運んでいるのでしょうか。

写真 1、写真 2、写真 3、写真 4、写真 5、写真 6、写真 7、写真 8、写真 9、写真 10、

Facebook, 2018.5.1, 22:41

植物の専門家にお尋ねしたところ、「樹皮こそ命綱」だそうです。

「「根から水や栄養分も、ぺらぺらの樹皮だけではこんでいるのでしょうか」

そのとおりです。植物の水や養分は、樹皮とその樹皮の内側に接している材木の部分がその大きな役割を担っております。特に栄養は、樹皮、特にその内側のフレッシュな柔らかい部分に養分の通路があります（師部という部分です）。中心部分の材木部分が失われても、樹皮の部分ほど生存に直結することはないでしょう。

鹿の食害が宮島や全国の山野で問題になりますが、シカが樹木をかじるというのでなく、栄養の通路となっている樹皮を食べるからです。

一般に巨樹と呼ばれるものの多くの樹木は、中心部分が腐食して、空洞状になっています。珍しいことではないようです。

聖山神社のエノキも、皮一枚で生き残っている状態で、痛々しいのですが、大切なのはこの「皮」を大切にいきながらえられるように保護してやる必要があるでしょう。」

聖山稲生神社の巨大エノキも何本ものつかえ棒で支えられています。